

平成29年（2017年）12月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 三宅 富士夫
 : (TEL) (06) 7635-1624

(百万円未満切捨て)

1. 当期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績

	当 期 (平成29年1月～平成29年12月)		前 期 (平成28年1月～平成28年12月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	128,834	-	119,498	-	9,336	7.8%
営 業 利 益	3,911	3.0%	3,833	3.2%	78	2.0%
経 常 利 益	4,091	3.2%	4,167	3.5%	▲76	▲1.8%
当期純利益	2,877	2.2%	2,795	2.3%	82	2.9%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の1社となっています。

(2) 単体経営成績

	当 期 (平成29年1月～平成29年12月)		前 期 (平成28年1月～平成28年12月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	127,392	-	118,070	-	9,322	7.9%
営 業 利 益	3,410	2.7%	3,551	3.0%	▲141	▲4.0%
経 常 利 益	3,616	2.8%	3,869	3.3%	▲253	▲6.5%
当期純利益	2,524	2.0%	2,571	2.2%	▲47	▲1.8%

2. 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）における世界経済は、緩やかな回復基調で推移しました。中でも当社が注力するアジア市場では、中国で各種政策効果による景気の持ち直しの動きが続き、韓国・台湾でも景気は回復基調にあります。

国内経済は為替相場が円安基調で比較的安定し、輸出や生産の持ち直しが続き、民間企業設備投資などにも好転がみられました。雇用・所得環境も改善し、景気回復は長期化しています。

このような環境の下で、クラレグループが目指す「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現に向け、2015 年度より推進している中期経営計画『GS-STEP』で掲げた「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」や「高付加価値商材の開発」を推進しました。

以上の結果、当期の連結経営成績は、売上高は1, 288億3千4百万円（前期比93億3千6百万円、7.8%の増収）、営業利益は39億1千1百万円（同7千8百万円、2.0%の増益）、経常利益は40億9千1百万円（同7千6百万円、1.8%の減益）、当期純利益は28億7千7百万円（同8千2百万円、2.9%の増益）となりました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(1) 営業の概況

【繊維関連】（増収、減益）

売上高は435億5千4百万円。前期比3億8百万円(0.7%)の増収。

（衣料分野）

- スポーツ分野は、主要顧客との取組強化が実り、テキスタイル・縫製品とも順調に推移し増収となりました。
- ユニフォーム分野は、市況の緩やかな回復に伴いワーキング、企業別注向けを中心に増収となりました。
- ファッション分野では、フォーマル・婦人用途は国内市況の低迷、又中東向けでは原油安・政情不安による市況低迷により減収となりました。
- 原糸販売は、国内向けの不振および海外向け差別化糸の販売遅れにより減収となりました。
- 縫製品ビジネスは、ベトナム主力協力工場的能力増強を実施し、生産・販売とも拡大しました。

以上の結果、衣料分野は微減収、減益となりました。

(資材分野)

- 生活資材は、フィルター、ワイピング用途を中心に不織布、ニットの販売が堅調に推移しました。
- 産業資材は、ビニロンを中心に堅調に推移しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、ゴルフ手袋用途等が堅調に推移しました。

以上の結果、資材分野は増収、微増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(増収、増益)

売上高は852億8千1百万円。前期比90億2千9百万円(11.8%)の増収。

- 中国向けを中心に概ね好調に推移しました。

(2) 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

当社の経営環境は、国内、中国、アジア新興国において全体としては緩やかな景気回復の動きが続くと見込まれています。一方で、中国をはじめとする政策の不確実性や朝鮮半島での地政学リスクの高まりなど、懸念材料も多くあると認識しております。

このような状況の下、新中期経営計画『PROUD 2020』における当社の戦略である、アジアでの業容拡大、繊維事業の収益拡大等に努めて参ります。この結果、次期連結会計年度の業績は当期業績を上回るものと予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期 (累計)	660	22	22	14
通期	1,350	45	45	30

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上